

着衣着火に注意！！



着衣着火はご存知でしょうか？

着衣着火とは、調理中にこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が着ている服に着火した火災をいいます。全国の住宅火災における死者の発生状況（約1000件）のうち、約5%（46人）が着衣着火により亡くなられています。（平成30年中）

過去5年の交野市内で発生した着衣着火の火災事例を紹介します。

事例1

こんろでお湯を沸かすため火をつけた際、袖口に火がついてやけどを負った。

事例2

こんろを使用中、こんろの奥に置いている調味料を取る為、手を伸ばしたところ、着ていたシャツに火がついて負傷した。

日常の生活の中で何気ない行動をしていませんか？そこに危険は潜んでいます。

- ① こんろによる着衣着火を性別で見ると、女性は男性の2倍以上の人数で発生しています。※食事の時間帯に多く発生しており、火災死亡者のおよそ9割近くは65歳以上の高齢者です。
- ② 着衣着火による火災は、小規模の火災であっても重症化しやすい傾向にあります。
- ③ 厚着をする冬場や、服装の変化する季節の変わり目に多く発生しています。

もしも、衣服に燃え移ったらすぐに水をかけてください。

身の周りに水がない場合には、慌てずに



ストップ・ドロップ&ロール を実施しましょう。



衣服が燃え広がらないような防災品（エプロンやアームカバーなど）の商品が売られています。値段は高額になりますが、自分の身を守る手段の一つとしてお勧めします。



このラベルが目印！

普段の何気ない行動で発生してしまうととても危険なものですので、火の取扱い時には細心の注意を払ってください。